

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-219123

(43)公開日 平成5年(1993)8月27日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 L 12/56				
H 0 4 M 3/36	C	8426-5K 8529-5K	H 0 4 L 11/ 20	1 0 2 Z

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-42026

(22)出願日 平成4年(1992)1月31日

(71)出願人 000232047

日本電気エンジニアリング株式会社
東京都港区西新橋3丁目20番4号

(72)発明者 萬田 和仁

東京都港区西新橋三丁目20番4号 日本電
気エンジニアリング株式会社内

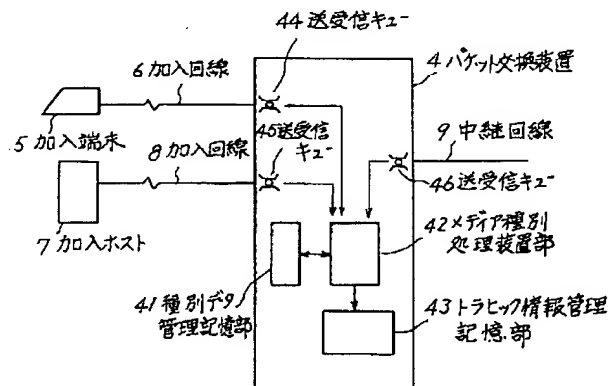
(74)代理人 弁理士 菅野 中

(54)【発明の名称】 パケット通信のトラヒック観測方式

(57)【要約】

【目的】 発DTEアドレスの1ディジットにメディア種別を定義付ける。またパケット交換装置内にメディア種別の抽出、分析、管理を行い、トラヒック観測データのメディア分類を行う。

【構成】 システムであらかじめメディア種別を定義付け、端末からの発呼要求時、発DTEアドレス内の1ディジットに種別を乗せ、受信したパケット交換装置4内で、該当1ディジットを抽出、分析し、トラヒック観測データを収集管理する内容に、該当メディア種別毎にトラヒック観測データを分類管理する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 呼接続要求パケットのDTEアドレスの1ディジットを抽出し、分析する制御処理装置部と、前記1ディジットの種別データを管理する記憶部と、パケット通信データのトラヒック情報を管理する記憶部とを有することを特徴とするパケット通信のトラヒック観測方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、パケット通信のトラヒック観測方式に関し、特にメディア別のトラヒックデータ分類が可能となるトラヒック観測方式に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のトラヒック観測方式では、パケット交換機に収容する回線番号毎でのトラヒック観測機能を有している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この従来のトラヒック観測方式では、収容回線毎のデータ分類しかできない。しかし論理多重が可能なパケット通信においては、1本の回線に複数のメディア別通信が行なわれる。したがって、回線毎のトラヒック観測では、メディア別のトラヒック観測データの分類ができないという問題点があった。

【0004】本発明の目的は、メディア別にトラヒック観測データの分類ができるようにしたパケット通信のトラヒック観測方式を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため、本発明に係るパケット通信のトラヒック観測方式においては、呼接続要求パケットのDTEアドレスの1ディジットを抽出し、分析する制御処理装置部と、前記1ディジットの種別データを管理する記憶部と、パケット通信データのトラヒック情報を管理する記憶部とを有するものである。

【0006】

【作用】パケット通信開始時の発呼要求パケット内にある被呼DTEアドレスの1ディジットにメディア種別を意味付けることにより、前記1ディジットを抽出し、分析し、分析時に参照する種別データを管理記憶し、トラヒック情報を管理する。

【0007】

【実施例】次に本発明について図面を参照して説明する。図1は、発呼パケット内の発DTEアドレスフィールドの7桁番号NTN1(CCITT X.121勧告に記載された番号フォーマットのネットワーク端末番号)にメディア種別ディジット2を位置付けた図を示すものである。図2は、種別データ管理記憶部内のデータ構造を示すフォーマット3で、メディア種別ディジット31とメディア種別内容32で構成される。図3は、本

発明の一実施例を示すブロック図である。

【0008】図において、パケット交換装置4には、加入回線6、8、中継回線9が接続され、加入回線6には加入端末5が、加入回線8には加入ホスト7が接続されている。

【0009】パケット交換装置4内部には、回線対応に送受信キュー44、45、46があり、さらにメディア種別処理装置部42と、データ照合する種別データ記憶部41と、トラヒック情報管理記憶部43を有している。

【0010】例として加入端末5が通信開始に当たり、発呼要求パケットをパケット交換装置4へ送信する。

【0011】送受信キュー44で受信した発呼要求パケットについてメディア種別処理制御部42で発呼要求パケット内のメディア種別ディジット2(図1参照)を抽出し、該当ディジットデータを種別データ管理記憶部41のデータ(図2参照)と照合し、トラヒック情報管理記憶部43に分類し、登録する。

【0012】以後、加入端末5の通信データは分類された記憶部4にトラヒック観測データが記憶されていく。

【0013】同様に加入ホスト7及び中継回線9の発呼要求による新規通信のトラヒックデータの分類観測も行なわれる。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、事前に通信メディア種別を定義付け、パケット交換装置がデータ抽出、分析、管理を行うことにより、メディア別毎のトラヒック観測ができ、メディア別トラヒックを調査したいユーザにとってフレンドリーなシステムを提供できるという効果がある。。

【図面の簡単な説明】

【図1】発呼要求パケット内の発DTEアドレスフォーマット図である。

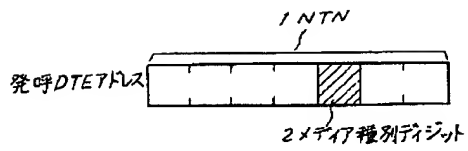
【図2】種別データ管理記憶部内のデータ構造例を示す図である。

【図3】本発明の一実施例を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 NTN
- 2 メディア種別ディジット
- 3 種別データ管理フォーマット
- 31 メディア種別ディジット
- 32 メディア種別内容
- 4 パケット交換装置
- 41 種別データ管理記憶部
- 42 メディア種別処理装置部
- 43 トラヒック情報管理記憶部
- 5 加入端末
- 6, 8 加入回線
- 7 加入ホスト
- 9 中継回線

【図1】



【図2】

31×ダイヤ種別ディジット		32×ダイヤ種別内容
0	EDP	X.25
1	FAX	
2	TEL	

3種別ダイヤ管理フォーマット

【図3】

